

## 令和7年度 第1回三木市文化財保護審議会次第

日 時：令和7年11月13日（木）

午後1時30分～4時

場 所：みき歴史資料館 3階 講座室

### 1 開 会

### 2 報告事項

- (1) 令和7年度文化財保護事業計画について【資料1】
- (2) 国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁の今後の整備について【資料2】

### 3 協議事項

- (1) 市指定文化財の指定計画について【資料3】（非公開）
- (2) 「文明十五年卯月三日付馬大夫等連署証文」の概要と今後の方針について【資料4】

### 4 その他

### 5 閉 会

# 三木市文化財保護審議会 委員名簿

	役職	氏 名	分 野	備考
1	会長	<small>みやた としたみ</small> 宮田 逸民	城郭史	再任
2	副会長	<small>よりふじ たもつ</small> 依藤 保	日本法制史	再任（公募）
3	委員	<small>ふじた ひとし</small> 藤田 均	郷土史	再任
4	委員	<small>ちぐさ ひろし</small> 千種 浩	文化財保存	再任
5	委員	<small>なかくぼ たつお</small> 中久保 辰夫	考古学	再任
6	委員	<small>やまだ たかお</small> 山田 貴生	民俗	再任（公募）
7	委員	<small>かがみ としあき</small> 各務 寿晃	仏教美術	新任（公募）

※ 任 期 令和6年6月1日から令和8年5月31日

## 令和 7 年度文化財保護事業計画について

## 1 事業計画

事業名	内 容	実施日	実 施 場 所
文化財保護審議会	〔第 1 回目〕 ・令和 7 年度文化財保護事業計画について他 〔第 2 回目〕 ・令和 8 年度文化財保護事業計画について他	11 月 13 日  3 月頃	みき歴史資料館
歴史・美術の杜推進事業関係 (1) 啓発関係	歴史ウォーク① 這田村法界寺山ノ上付城跡コース 参加者 32 人	4 月 17 日	這田村法界寺山ノ上付城跡他
	歴史ウォーク② 近世絵図で歩く三木城跡 雨天中止	5 月 17 日	三木城跡
	歴史ウォーク③ 秀吉本陣跡コース 定員 30 人	11 月 22 日	秀吉本陣跡他
	歴史ウォーク④ 吉川町有安・鍛冶屋の文化財コース 定員 20 人	1 月 24 日	有安古墳他
	歴史ウォーク⑤ 想像復原図で歩く三木城跡コース 定員 25 人	2 月 15 日	三木城跡
	歴史ウォーク⑥ ホースランドパーク周辺付城跡コース 定員 20 人	3 月 22 日	明石道峯構付城跡他
(2) みき歴史資料館	企画展① 東播系須恵器の話をしよう 来館者 2,435 人	4 月 19 日～ 6 月 22 日 (55 日間)	みき歴史資料館

	企画展② 三木の近代と戦争 来館者 1,926 人	7 月 19 日～ 9 月 28 日 (61 日間)	みき歴史資料館
	企画展③ 地域の史料たち 8～細川の 歴史～	10 月 18 日～ 12 月 21 日 (56 日間)	みき歴史資料館
	企画展④ 播磨の城めぐりー木内内 則さんが描く三木合戦関 連の城ー	1 月 24 日～ 3 月 22 日 (49 日間)	みき歴史資料館
	みき歴史資料館協議会	10 月 30 日 3 月頃	みき歴史資料館
(3) 三木城跡及 び付城跡・土 塁の整備	平井山ノ上付城跡主郭展望 台解体撤去	4 月 9 日～16 日	平井山ノ上付城 跡
	歴史の森マツ枯れ伐採撤去 作業委託	10 月 3 日～3 月 31 日	明石道峯構付城 跡
	発掘調査検討委員会	10月24日 2月3日	みき歴史資料館
	『令和4～6年度 三木城跡発 掘調査報告書ー三木城本丸 跡・二の丸跡ー』の作成	4月～3月	みき歴史資料館
埋蔵文化財発掘 調査等	①包蔵地照会件数 112 件 ②届出件数 93 条 4 件 94 条 0 件 ③指導事項 慎重工事 1 件 工事立会 2 件 本発掘調査 0 件 未定 1 件 ※10 月末時点	随時	市内
	工事立会 3 件 ※10 月末時点 ①細川西片山散布地 調査原因 浄化水槽埋設 遺構・遺物なし ②大塚遺跡 調査原因 共同住宅 遺構・遺物なし ③大塚下り松遺跡 調査原因 個人住宅 遺構・遺物なし	4 月 18 日  6 月 10～12・ 24・26 日  10 月 27 日	細川町西  大塚  大塚

埋蔵文化財維持・管理	遺跡管理除草作業 委託業者：（公社）三木市シルバー人材センター 直営：市職員	随時	三木城跡及び付城跡・土塁、正法寺古墳、与呂木青葉台古墳、愛宕山古墳、有安2号墳他
展示公開	別所ふるさと交流館埋蔵文化財展示室において、別所町の遺跡等を紹介	4月～3月	別所町下石野
文化財実態調査	『三木の石造品Ⅳ－志染地区編－』作成のための調査等を実施する。 調査ボランティア 4人	4月～3月	市内

## 2 資料貸出等

依頼者	資料名	目的	許可日
神戸市	画像資料 三木合戦軍図 別所長治画像	神戸市埋蔵文化財センター夏季企画展「神戸の山城を描く」において展示、展示解説書・ポスター・チラシに掲載するため	5月30日
神戸市	木内内則氏作画 「三木城攻付城市群想像復原図」	神戸市埋蔵文化財センター夏季企画展「神戸の山城を描く」において展示するため	6月6日
戎光祥出版	画像資料 二位谷奥付城跡C 測量図 ほか 計46点	金松誠『畿内近国の城郭と縄張技術』に掲載するため	6月11日
戎光祥出版	画像資料 平井山ノ上付城跡 赤色立体地図 ほか 計5点	高田徹編著『中世城郭の新論点』に掲載するため	6月11日
テレコムスタッフ	画像資料 別所長治画像	令和7年12月放送予定のNHKBS『チャリダー』にて使用するため	6月27日
エディキュープ	画像資料 三木合戦軍図	『TJMOOK 歴史アドベンチャー 豊臣一族 天下統一を成し遂げた秀吉と秀長の軌跡』（仮題）に掲載するため	8月8日
風来堂	画像資料 三木城御城印	『戦国 Walker2026』に掲載するため	10月9日

※10月末時点

### 3 講演等派遣事業

依頼元	内 容	講師	実施日	実施場所	参加者 (予定)
大阪歴史博物館	クラブツーリズム 「三木合戦と三木城包囲網」	金松誠	5月31日	三木城跡・みき歴史資料館	20人
游学サロン 二水会	7月例会 「三木市埋蔵文化財の調査の概要」	金松誠	7月30日	堀光美術館・みき歴史資料館	12人
豊地小学校	ふるさと三木の歴史学習 「冷泉家と藤原惺窩」	金松誠	9月10日	豊地小学校	5人
安芸高田市歴史民俗博物館	公開講座第3回 「秀吉の播磨三木城攻めと毛利氏」	金松誠	9月21日	安芸高田市民文化センター	82人
三木市高齢者福祉センター	三木の近代と戦争	金松誠	12月16日	高齢者福祉センター	(30人)

### 4 図書の発行

書籍の名称	編集・発行	発行部数	発行日
三木市文化研究資料第40集 『三木の石造品Ⅳ―志染地区編―』	三木市教育委員会	300部	3月31日
三木市文化研究資料第41集 『令和4～6年度 三木城跡発掘調査報告書―三木城本丸跡・二の丸跡―』	三木市教育委員会	300部	3月31日

### 5 指定文化財に係る補助事業

事業者	指定文化財の名称	内容
有安地区	有安 阿弥陀三尊種子板碑（自然石）	・近接する有安地区が所有する土地に板碑を移設し、台座に埋設して立てた。
伽耶院	伽耶院	・消防設備保守点検（県補助随伴）
東光寺	東光寺本堂	・消防設備保守点検（県補助随伴）
歓喜院	歓喜院聖天堂	・消防設備保守点検（県補助随伴）
天津神社	天津神社本殿	・消防設備保守点検（県補助随伴）
稻荷神社	稻荷神社本殿	・消防設備保守点検（県補助随伴）

## 6 文化関係団体の育成及び活動支援

事業名	内 容	実施日	実施場所
地域文化財総合活用推進事業	<p>伝統文化の保存団体が地域の伝統文化を継承するため実施する伝承者等の養成、用具等の整備、映像記録の作成に対し、文化庁の補助事業によって一定の限度額の範囲で事業支援する。</p> <p>1 伝統文化継承基盤整備事業 祭りの屋台・獅子舞等地域の文化遺産継承のために用いる用具の新調・修理事業 新調・修理した用具を使った体験事業や一般公開を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下町屋台保存会 支援内容 水引幕の修理</li> <li>・平田屋台保存会 支援内容 高欄及び飾り金具の修理</li> <li>・大手町屋台保存会 支援内容 水引房等の新調</li> <li>・御坂神社太鼓保存会 支援内容 水引幕掛金具の修理</li> <li>・興治獅子舞保存会 支援内容 獅子舞用具獅子頭等の修理、獅子舞用具油単等の新調</li> <li>・下石野青友会 支援内容 獅子舞用具別誂天狗衣装の新調</li> </ul>	4月～3月	市内

# 国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁の 今後の整備について



# 1 目的・意義・経緯

- 令和4年度～6年度にかけて、三木城本丸跡・二の丸跡の整備に向けた発掘調査を実施した。令和7年度は整理作業を行い、報告書を刊行する予定である。
- そこで、令和8年度から10年度までの期間において、調査成果をもとに整備を実施する。
- 遺跡公園的な整備を進めることにより、史跡がまちのシンボリックな存在となるよう取組を進めていく。
- 整備方針を検討するため、史跡「三木城跡及び付城跡・土塁」整備検討委員会を設置する。

## 2 取組内容

### (1) 三木城本丸跡

- かんかん井戸落下防止柵設置工事
- 外来樹木伐採業務委託
- 遺構平面整備工事(盛土整地・堀平面表示)

### (2) 三木城二の丸跡

- 外来樹木等伐採業務委託
- 遺構平面整備工事(盛土整地・堀平面表示)

### (3) その他

- CG復元AR(VR)アプリ製作
- 整備報告書刊行

### (4) 概算事業費

- 16,000千円(国・県 75%補助)

R8 かんかん井戸整備

R9 遺構平面整備、遺構解説板の設置、  
外来樹木等伐採



## (5) 整備検討委員会

- 三木市教育委員会が行う国指定史跡「三木城跡及び付城跡・土塁」の整備について必要な事項の検討、指導及び助言をするため、国指定史跡「三木城跡及び付城跡・土塁」整備検討委員会を設置する。
- 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。
  - ①整備の方針の検討に関すること。
  - ②整備に係る指導及び助言に関すること。
  - ③その他整備を行うために必要と認められる事項に関すること。
- 委員会は、委員5人以内をもって組織する。委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。
  - ①考古学の学識経験を有する者 2人
  - ②三木市文化財保護審議会が推薦する者 2人
  - ③その他教育長が適当と認める者 1人
- 委員会に委員長及び副委員長を置き、それぞれ委員の互選により決定する。

### 3 スケジュール・課題

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・三木城本丸跡かんかん井戸落下防止柵設置工事</li><li>・三木城二の丸跡外来樹木等伐採</li><li>・整備検討委員会 5月要綱策定 8月委員就任</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・三木城本丸跡・二の丸跡遺構平面整備工事</li><li>・三木城本丸跡外来樹木等伐採</li><li>・整備検討委員会</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・CG復元AR（VR）アプリ製作</li><li>・整備報告書刊行</li><li>・整備検討委員会</li></ul>
予算	3,000千円	9,000千円	4,000千円

#### （課題）

- ・国・県の査定により、事業が縮小される可能性がある。



# 4 令和8年度の整備内容

R8 かんかん井戸整備

R9 遺構平面整備、遺構解説板の設置、  
外来樹木等伐採



(1) かんかん井戸落下防止柵設置工事(1, 287千円)

- 落下防止のために井戸上面は金網で覆い、周囲には柵を設置しているが、経年劣化が著しい状況となっている。そこで、覆いと囲いを更新・補修することによって、見学者の安全を確保するとともに環境整備を図る。



全景(南から)



井戸上面



柵東隅



柵北隅



R8 かんかん井戸整備

R9 遺構平面整備、遺構解説板の設置、  
外来樹木等伐採



## (2) 三木城二の丸跡外来樹木等伐採(1, 567千円)

- 植生管理計画に基づき、外来種のカイツカイブキの伐採処理、竹木の間伐処理、高木の枝切処理及び運搬処分を行う。



1 カイツカイブキ(東から)



2 カイツカイブキ(北東から)



3 カイツカイブキ(南西から)



4 竹木(北から)



# 5 令和9年度の整備内容

R8 かんかん井戸整備

R9 遺構平面整備、遺構解説板の設置、  
外来樹木等伐採



## (1) 遺構平面整備工事

発掘調査成果に基づき、本丸跡・二の丸跡において  
検出された堀の平面表示を行うとともに、周辺の上の  
丸保育所跡・旧上の丸庁舎跡・堀光美術館別館跡・釜  
城館跡における盛土整地を行う。



①上の丸保育所跡盛土整地・フェンス撤去(南西から)



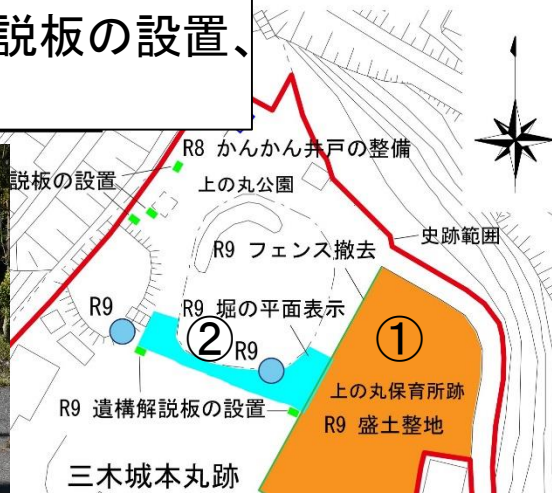
堀平面表示例(九戸城跡)  
(コンクリート舗装)



②堀平面表示(西端・南から) ②堀平面表示(西から)



R8 かんかん井戸整備  
R9 遺構平面整備、遺構解説板の設置、  
外来樹木等伐採



⑦釜城館跡盛土整地(南東から)



③堀平面表示(上が北)



④堀平面表示(上が北)



⑤旧上の丸庁舎跡盛土整地  
(西から)



⑥堀光美術館別館跡盛土整地  
(北から)



R8 かんかん井戸整備  
R9 遺構平面整備、遺構解説板の設置、  
外来樹木等伐採



## (2) 遺構解説板設置

発掘調査成果に基づき検出された遺構の解説板を設置する。



遺構解説板(明石道峯構付城跡)



R8 かんかん井戸整備  
R9 遺構平面整備、遺構解説板の設置、  
外来樹木等伐採



### (3) 三木城本丸跡外来樹木等伐採

植生管理計画に基づき、外来種の伐採処理及び運搬処分を行う。



A コウヨウザン(南東から)



B ヒマラヤスギ(南西から)

## 6 令和10年度の整備内容

### (1) CG復元AR(VR)アプリ製作

#### ア 目的

- ガイダンス施設である三木市立みき歴史資料館において、本史跡におけるAR(VR)を活用したCG復元アプリを製作することにより、スマートフォンを介して三木合戦や各遺跡の様子をわかりやすく紹介する。
- さらに現地においても、連動して利用可能なものとすることにより、来訪者が本史跡の理解をより深めることができるようにする。
- また、利用ログ機能を用いることにより、アプリの利用者がどのように活用しているかを把握できるものとする。

## イ 業務内容

- アプリ開発
- 三木城散策マップ機能
- 付城跡用スポットCG制作(7城×2種)
- 平井山ノ上付城跡、這田村法界寺山ノ上付城跡、高木大塚城跡、高木大山付城跡、シクノ谷峯構付城跡、明石道峯構付城跡、小林八幡神社付城跡
- 現地確認テスト

## (2) 整備報告書の刊行

平成30年度～令和10年度にかけて実施した史跡整備の報告書を作成する。

「文明十五年卯月三日付馬大夫等連署証文」の概要と今後の方針  
について

- 1 文化財の名称  
文明十五年卯月三日付馬大夫等連署証文
- 2 概要  
別紙のとおり

新三木市史地域編4

# 志染の歴史

三木市史



## 五 宇和谷池の水利

志染地区では、主な寺社のほとんどが三木合戦で焼かれたとの伝承があり、中世文書が残っていない。『兵庫県史』史料編に採録された唯一の中世文書が、志染町戸田の大野家に伝わった「宇和谷之池之事」と題する「馬太夫等連署証文」である。文書に出てくる「宇和谷之池（ウワガヤノイケ）」とは、戸田の宇和谷の入口にある「岩ヶ池」のことと思われる。戸田は、明治時代になるまでは小戸田（こつた）村と大戸田（おおとだ）村に分かれていた。文書は、岩ヶ池が文明一五年（一四八三）に築造されたときに、その水利権等について記した証文で、次のように読める。

右の池床は大戸田の分。十分の一の水は大戸田へかか  
るべし。うすミのはつは此の勲功に、丹う地かちへとるべ  
し。池の樋は、福蔵が洞の向いに、大楯（とが）の木を立  
て申す。丹生寺道を限り、志水の越をかぎり、岡の坂をか  
ぎり、大戸田の分。仍為後日如件

文明十五年卯月（四月）三日

行原伊屋ノ上・萩原宮ノわき・戸田西兵衛

村神左京助・小戸田於野・馬大夫



写真11 宇和谷池（現在の岩ヶ池）

宇和谷之池（岩ヶ池）は小戸田の人々が築造したが、その池床は大戸田の土地であった。このため、一〇分の一の水が大戸田へかかる約束となつたようである。また、池の樋を抜いた時の最後の水「うすミのはつ」は、大戸田の地に築かせてもらつたお礼として、「丹う地かち（現在の字入寺ケ市・にゆうじがいち）」の田地に権利が与えられている。「うすミのはつ」とは、「渦水の発」のようである。池の堅樋を抜いた時、最後池底の水に渦が巻く。渦巻きが

発生した後の水が「うすミのはつ」である。

現在、岩ヶ池の水は、小戸田水利組合によって管理されていて、旧小戸田地域に八割六分七厘、旧大戸田地域に一割三分三厘の割合で分水され、水利費もその割合で徴収される習わしが残っている。旧大戸田地域の割

合のうち、三分三厘は「うすミのはつ」の分だと思われるが、地元では水のかかる「字入寺ケ市」の田地が一町三反三畝あったからと解釈されてきたようである。

文書の後半は岩ヶ池周辺の両村の境を確認したものである。池床が大戸田の土地だったので、この時に両村の境の再確認が行われたものと思われる。「丹生寺道」は戸田から丹生山上にあった丹生寺（明要寺）への参拝道とみて間違いないだろう。現在も丹生山頂までハイキング道がある。「志水の越」と「岡の坂」はそのとおりの遺称地がない。ただ、岩ヶ池の洪水吐の北東二〇〇メートルのところに薬師堂が祀られていて、その再建記念碑に「丹生山より清水が湧き出るこの地に堂を立て薬師如来を安置し清水薬師と称す」とあり、そのあたりから道が上りになるところから、「清水の越」ではないかと思われる。また、岩ヶ池の北に「岡山」という小高い山があり、岩ヶ池の南東にある畑に行く道が岩ヶ池と岡山の間を通っていた。この道が急な坂であったということから、そこが「岡の坂」ではないかと思われる。付近は今も「岡山」という小字名であり、岡山の西の麓に「岡山上池」「岡山下池」という二つの小さな池がある。

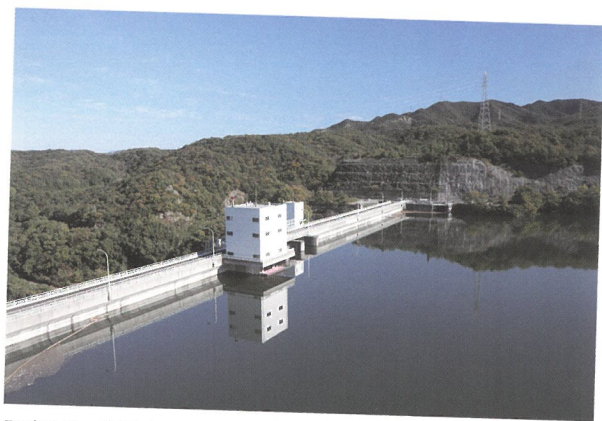


写真12 東播磨と神戸市の水がめとして建設された呑吐ダム

次に、連署した人物が六名いるが、その中に行原・萩原といった現神戸市北区淡河町の人物がいるのは、戸田が中世は淡河荘に属していたためである。「戸田」については、最近まで志染町戸田一番地には戸田家の屋敷があったということとで、勝龍寺の墓地には江戸時代初期からの墓石が存在している。ただし、「戸田 西兵衛」ではなく、「戸田西 兵衛」かもしれない。「村神」については、江戸時代に淡河組の大庄屋と本陣を勤めていた村上家や三津田一の旧家という村上家など、淡河荘内の各地に村上家がある。「於野」については、小戸田に小野妹子の末裔という伝承を持つ小野家がある。「馬大夫」については不明であるが、文書を所有しておられた大野家の先祖なのだろうか。



## 第三節 近世の志染

### 一 領主の変遷

#### 1 織豊期〜別所氏の滅亡後の志染の状況

ところで、五〇〇年も以前の文書が残ったのは、水利や土地の帰属というものが重要であったことを示している。現在の三木市では大規模な吞吐ダムが完成し、水利の心配がほとんど無くなった一方で、先人が苦勞して築いた多くの溜池が、宅地開発等のため無造作につぶされてしまっている。しかし、小さな池のひとつひとつにかけた昔の人々の思いを、決して忘れてはならないと思う。

天正八年（一五八〇）正月、別所氏の滅亡とともに、勝者織田信長軍の部将羽柴秀吉が三木城に入った。秀吉は、播磨支配の拠点を姫路に定めたので、すぐに三木城を離れ、代わって家臣の前野長康を三木城に配した。長康の所領は、美嚢（三木）郡において三万一〇〇〇石あてがわれたといわれる（『武功夜話』（『兵庫県史』史料編近世1所収）。しかし、長康の支配が美嚢郡全体を占めるものだったかは判然としない。したがって志染地域の支配を長康が担ったのかもわからないというのが実情である。

前野長康の三木在城は天正一三年までで、その後は摂津国から中川秀政が三木城に配された（『中川氏御年譜』）。三木郡における中川氏の石高は、秀政段階では史料的に判然としないが、秀政死後、後継者となった弟の秀成段階では、知行方目録（写真13、神戸大学大学院人文学研究科蔵中川家文書）が残されており、それによれば三木

## 新三木市史 地域編 4 志染の歴史

---

令和 3 年（2021）3 月 31 日発行

編 集 三木市史編さん委員会  
発 行 三木市  
事務局 三木市総務部市史編さん室  
〒673-0432 三木市上の丸町4-5  
三木市立みき歴史資料館 2 階  
TEL: 0794-83-1120  
印 刷 小野高速印刷株式会社  
姫路市平野町 62 番地

# 新三木市史

## 第四卷

資料編

古代・中世

### 3 大野文書

文明一五年(一四八三)四月、宇和谷池の水利が定められる

66 【馬大夫等連署証文】 文明一五年四月三日

大野文書  
田中隆次「文明十五年卯月三日馬太夫等連署証文」

宇和谷之池之事

右池とこ者大戸田之分、十歩菴ノ水者大戸田へかゝるへし、  
(渦水) (発) (熱功)  
 うすミのはつハ此くんこうに、にう地かちへとるへし、池の  
(種) (洞) (向) (梅) (立) (丹)  
 ひ者、福蔵かどうのむかひに、大とかの木をたて申、たんし  
(生) (限) (清水) (越)  
 やう寺道をかきり、志水かこしをかきり、岡のさかをかきり、  
 大戸田ノ分、仍為後日如件、

文明拾五年卯月三日

行原伊屋ノ上(略押)

はき原宮ノわき(略押)

戸田西兵衛(略押)

村神左京助(略押)

こ戸田於野(略押)

馬大(略押)

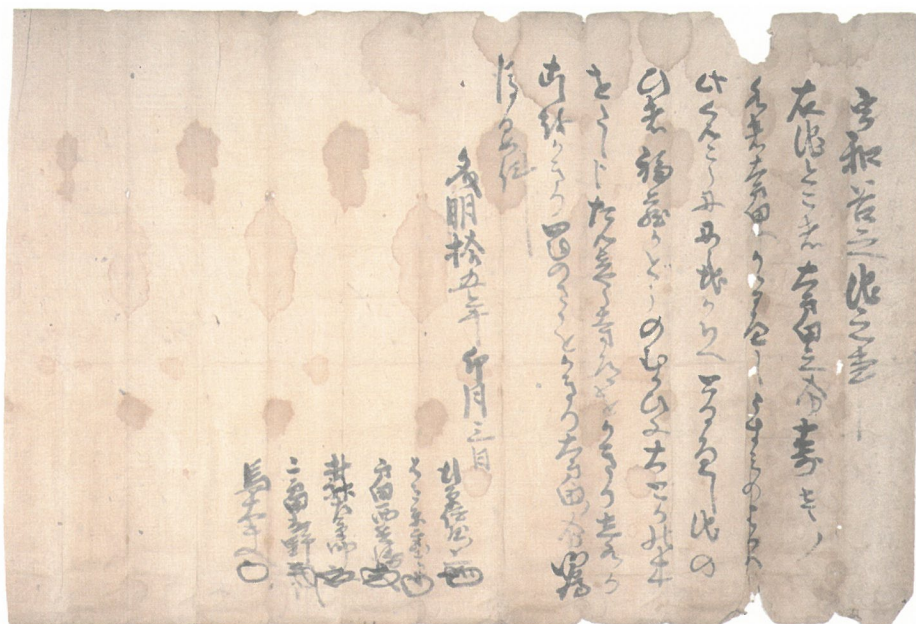
〔解説〕 宇和谷池の水利や池周辺の村境について大戸田村と小戸田

村(ともに志染町戸田)の間で取り決めたもの。宇和谷池は三木  
 市志染町戸田字兼射場の岩ヶ池に比定されている。また、署名  
 者六名は淡河庄における有力農民と考えられている(田中隆次  
 二〇二一)。

なお、『兵庫県史』史料編中世二にも翻刻があるが、田中隆  
 次二〇二一の翻刻のほうが正確であると判断した。

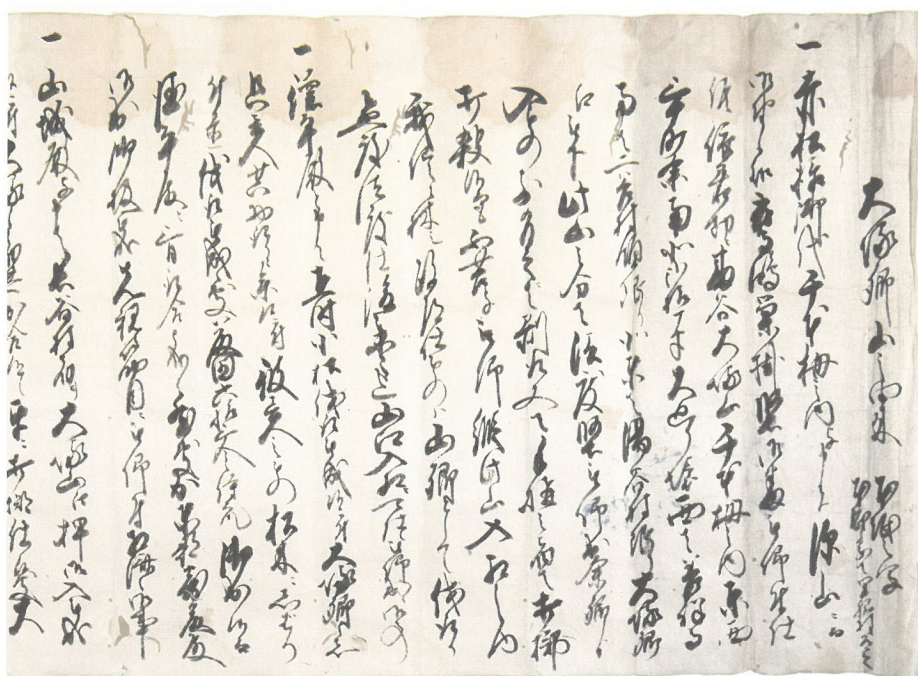
3 大野文書 三木市蔵

撮影：東京大学史料編纂所



66 馬大夫等連署証文 33.2×49.5

(付) 久次区有文書 久次区蔵



67 大塚郷山之由來写 30.5×112.2



### 三木市史編さん委員会

委員長	大西 浩 志	三木市副市長
副委員長	奥 村 弘	神戸大学理事・副学長
委 員	市 沢 哲	神戸大学大学院人文学研究科教授
同	尾 立 和 則	三木市文化財保護審議委員(～令和2年9月)
同	伊賀なほゑ	三木市文化財保護審議委員(令和2年9月～)
同	宮 田 逸 民	三木市文化財保護審議委員
同	田 中 隆 次	一般公募委員
同	藤 田 均	一般公募委員
同	大 北 由 美	三木市教育長

### 三木市史編さん通史編専門委員会(部会長)

委員長	奥 村 弘	神戸大学理事・副学長	(近代)
委 員	坂 口 隆 康	元兵庫教育大学・関西国際大学教授	(自然)
同	福 永 伸 哉	大阪大学大学院文学研究科教授	(考古)
同	古 市 晃	神戸大学大学院人文学研究科教授	(古代)
同	市 沢 哲	神戸大学大学院人文学研究科教授	(中世)
同	山 崎 善 弘	東京未来大学モチベーション行動科学部准教授	(近世)
同	高 岡 裕 之	関西学院大学大学院文学研究科教授	(現代)
同	内 田 俊 秀	京都造形芸術大学名誉教授	(文化遺産)
( )内は担当部会			

---

## 新三木市史 第四卷 資料編 古代・中世

令和5年3月31日発行

編 集 三木市史編さん委員会

発 行 三 木 市  
兵庫県三木市上の丸町10番30号

印刷・製本 河 北 印 刷 株 式 会 社  
京都市南区唐橋門脇町28

---